

第2号様式（第12条関係）

令和元年度第3回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 令和元年11月29日（金） 10時00分から11時45分まで
- 2 場所 大和市市民交流拠点 ポラリス 大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター Room3
- 3 出席者 7名
- 4 傍聴人数 0名
- 5 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの改定について
 - (2) 街づくり啓発事業について
- 7 その他

会議資料

- ① 次第
- ② 資料1-1 都市計画マスタープラン 改定の流れ
- ③ 資料1-2 都市計画マスタープラン 市民意見の把握 概要報告
- ④ 資料1-3 都市計画マスタープラン 目次（案）
- ⑤ 資料1-4 都市計画マスタープラン 基本理念と目指すまち
- ⑥ 資料1-5 都市計画マスタープラン （全体構想 案）
- ⑦ 資料2 街づくり啓発事業について
- ⑧ 資料2-1 「歩いて知ろう 大和市の街づくり賞」当日の様子

■令和元年度 第3回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和元年度 第3回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和元年11月29日(金) 10時00分から11時45分

[開催場所] 大和市民交流拠点 ポラリス 大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター Room3

[出席委員] 7名(欠席:4名)

[出席]: 杉崎 和久/河村 奨/菅 孝能/星野 澄佳/山田 俊明/須賀 良二/
宇津木 朋子

[欠席]: 黒石 いずみ/松本 久美/江村 郁子/蓮沼 聡紀

[事務局] 11名(街づくり計画部長、街づくり総務課長、街づくり調査係4名、街づくり推進課長、
街づくり推進係3名、大和駅周辺市街地整備支援係1名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel. 046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの改定について
 - (2) 街づくり啓発事業について
3. その他
4. 閉会

II. 内容

-
1. 開会
 2. 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの改定について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

事務局より説明後、意見聴取。

○ 本日は自由に意見を述べる場になるが、若干、論点を整理したい。

前回の会議からの大きな変更はスケジュールが若干遅れていることである。

当初は、本日の段階で素案の整理が終わり、素案の項目が示されて議論するという想定だったが、現状ではまだその整理中である。

ただし、予定としては、最後は当初の予定通りに収まるスケジュールとなっており、次回会議の時点では、もう意見公募手続きや、いわゆるパブリックコメントとほぼ近い状態となるので、実態としては都市計画マスタープラン（以下「都市マス」という）の骨格が固まっている段階となる。

その点を踏まえると、実質的に本日はこちらから意見を伝えて反映できる最後の機会であり、一番重要な機会という位置づけになる。

都市計画審議会が諮問・答申という手続き上の位置づけであるのに対し、この推進会議は他の市民参加の手法の1つとしての位置づけであると言える。

この会議自体が街づくりに関わる意見・提案をする会議という位置づけなので、何らかの合意をして提案するというよりは、委員の皆さんが個別に意見を言っていただければと考えている。この会議として意見を整理して出すという場ではないので、自由に意見を言っていただければと思う。

内容についても、どれに対する意見でもよいが、事務局から目標とする都市の姿について、これまでにないものとして提案があったので、この点について特に意見が欲しいということかと思う。都市計画審議会でも、表現にもっと工夫が必要なのではないかということもあるが、この街づくり推進会議からも工夫や提案を伺うものであると思う。

また、この推進会議は地区街づくりに関わる議論と、これまであまり議論がないが、景観形成に関わる議論を行うという役割があるので、そういった観点から、将来に向けて必要と思われる視点の提案については、より強く提案していただくのが良いと思う。それ以外でも、市民の立場からのご意見で構わない。

あとは、今日は時間が限られているため、これまでの市民参加の評価も重要だが、実施済みの内容の報告なので、「こうすれば良かった」、「ああすれば良かった」という意見をいただき、または「今後こういうことも可能ではないか」という議論もしておきたい。

整理すると、目標とする都市の姿という主たる内容と、地域が主役となる街づくりの推進や景観に関わる内容について議論していきたいので、意識していただければと思う。不明点についての問い合わせでもよい。

- 【資料1-4】の都市形成の視点について、「多様」という言葉が繰り返され、画一的に見える。どう多様なのか、もっと具体的に表現するべきだと思う。

また、「居場所」という最近よく聞く表現についても、大和独自の表現になっていない。

ではどうすればよいかというと、私自身まだわからないが。

もう一点、次のページの取り組み例について、これは、今後10年間位で取り組むべきことを都市全体として抽出している部分である。

そうであれば、大和市が都市経営者として、今後どの点に力を入れていくかということを使うべきだと思うが、この部分も一般論的なことしか書かれていない。立地適正化計画（以下「立適」という）に記載があるためか、文字が薄くされている部分があるが、むしろ、こっちのほうが具体的で重要だと思う。

【資料1-2】の市民意見の概要報告により行政が認識している課題と、生活している市民が捉えている課題がかなり一致していることはわかるが、行政としては、それらをデータで明示して重みづけを行うべきで、その作業がこの取り組み例に繋がる部分だと思う。

例えば、住宅の需給バランスのミスマッチという問題があるが、より具体的に表現するべきだと思う。

一例として、今までは住宅といえばファミリータイプを基本に供給するという考え方だったが、現在の和歌山市の一般的な家族構成はどのようになっているのか。横浜では、ファミリータイプが全体数の4分の1しかいない。半分はだいたい単身及び二人である。そうすると、そのミスマッチが確かに大きい。市としては、それに対する施策を考えるべきである。

また、都市計画道路の進捗率6割について、これからの交通需要を踏まえると、それをもっと上げるべきか、現状で良いのか、検討するべきだと思う。そういう分析は、都市計画マスタープランではなく別のどこかで、もうすでに検討を進めているかと思うので、その検討結果をここに組み込んでいかないと、今後10年でやるべきことはなかなか見えてこないのではないのかという印象を持った。

- この表は、まだ書き込みの余地があるが、十分に詰められていないようである。
- 資料の小文字で書いてある言葉が非常に一般的であり、和歌山市の課題に深く言及していない。
- 課題が見えづらい表現になってしまっていると思う。
- こういう表現だと他の都市の都市マスと言われても通用しそうである。

▼ 都市計画審議会でも同様のご意見をいただいた。

例えば【資料 1-4】の左側の「現況と特性」について、これが一般的すぎるというご意見をいただいた。やはり和歌山市独特の良いところ・悪いところを表現することが必要であるというご意見や、「居場所」という表現も画一的過ぎるというご意見があった。

この点は、もっとしっかり和歌らしいところを打ち出していきたいというところである。そうするとやはり、裏面の参考の資料をより具体的に、和歌山市独自の内容を書き込む必要があるため、現在も引き続き作業を行っているところである。

- 確かに多様であると思うが、和歌山市の多様さは他の都市と違って、例えばやはり人口構成といったように、他の都市とは違う和歌山市の多様さを表現する必要がある。
- 感想として、「居場所となるまち」という打ち出し方は、「守り」というよりは「攻め」の姿勢であると感じ、私としては良い印象を受けた。

各地で自然災害が発生する昨今の日本の状況を踏まえると、安心安全が確保されていないところに、居場所があるはずないと思う。自然災害が多い土地であれば、もっとその安心安全、防災という部分が前面に出てくると思う。【資料 1-4 の都市形成のテーマ】を見ると、優先度の高い1番・2番に特に「居場所」に直結する記載がある。安全・安心に関する事柄が3番目ということは、優先度を下げている気がする。もし自然災害が多い地域であれば、これがやはり防災が前面に来ないと「居場所」も何もない。そういう意味で、前向きな攻めのプランと見受けられ、良い印象を持った。

- 【資料 1-2】について、実際に参加していないので詳細は不明だが、20年先ではなく、3、4年後の市の姿を検討するにとどまっている印象で非常にもったいないと思った。

もう1点、目的として次の20年後のあるべき都市の姿を考えるのであれば、市民からの意見が3、4年後ぐらいの理想像であれば、これを踏まえて思い切って【資料 1-4】の方に市として、20年後の姿として、こういう市民の意見を踏まえたらこうなったということを記載して良いと思う。

- そのような大きい話もありますし、具体的に抜けている視点についてのご意見でも良い。具体的な提案の方が入れやすいかもしれない。
- 先ほどのご発言にもあったが、前回の会議で、若い家庭のことを話されていて、高齢者や障害者への配慮がなされていないことが気にかかっていた。インクルーシブや、障害者、高齢者に対する視点を

提言するべきであったと考えていた。例えば、人生の終わり方、生き切り方に対応する住まいや都市の在り方について、その方の人生が終わったときに、住みかえが進むよう、土地や家屋は、どうやって次の利用へつなげるのか、という視点である。それともう一つ、先ほども触れられていたが、住まいを良くするより、経済優先の住まいの提供の仕方等も含まれてくるかと思う。そのダイバーシティ、総合計画の中の「互いに認め合う社会を作る」という中にそのように記載されており、買い物先のような市民の生活圏がどうなっているのかという視点も有効かと思う。

また、市民意見の把握の仕方について、対象になっていない団体や市民がいるのではないかと気になっている。

さらに【資料 1-4】の「都市形成の視点」について、課題が多数書いてあるが、私としては、どこの組織も衰退する懸念があって、経済事情や高齢化によってやり取りが難しくなってくる組織が多数あると認識している。

ではどのようにそれらの課題に対応していくか。それは、多様な暮らしや生業が継続されるような都市の持続可能な発展に向けた魅力の深化につなげていくかということだと思う。

また、多様な活動を展開という点については、ネガティブな課題は思い浮かぶが、人手不足や活発な組織作り・人づくりの方法等、それらと居場所とがリンクするのだろうが、そのあたりがとにかくどこもかしこも人が足りなくなり、活性化して活動するような環境が、すごく少ない状況が自治会や市民活動で見られ、子育て支援活動の中でも同様のようである。

多くの団体から話を伺ったと思うが、組織の中でも、沢山の問題や課題がある。人手不足や経済衰退が進む現状では、より余力を出して、ボランティアで何か作るのはなかなか難しいと思う。それらの手助けとなるような、豊かな空間や使いやすい空間づくり、あるいは人づくりこそが本当は作戦として始めなければいけないことなのではないかという印象を受けた。それだけではなく、本当は働く世代の人のゆとりの時間も必要なのだと思う。

- 今日自由に意見を出していただき、応答せずに参りましょう。いかがですか。
- 個別の話について具体的な意見を述べても難しいと思うが、居場所という話に関しては今日、会場となっているポラリスを初めて見に来て、一つ腑に落ちるといふか、ここはきっと居場所になっているという気がした。シリウスも同様である。

一方でこれが大和市らしさなのかという点、そこはまだこれからの話だと思う。大和らしさを都市マスで語るのは難しい。おそらく「らしさ」とは、大和市だけを見ているときには見えづらく、むしろ外からの視点で、都心からどういう位置づけであるとか、隣の都市との距離、この近辺の相対的な地価等を通して見えるものだと思う。線路がしっかり通っていることは非常に強みだと思うので、ここから導き出せる「らしさ」というものは、もっとシンプルに定義できる気がした。

今日いただいたまとめの資料【資料 1-4】の 2 枚目のマトリックスは一般人には理解しづらい資料だと思う。

誰に向けた資料なのか、位置付けた上で資料を作成した方が良いと感じた。

もう 1 点、対外的発信の自由度が現在すごく低い。街づくり啓発事業についても、その成果を市のホームページに公開する話があったが、その際、インスタグラムの活用等をご提案したが、実際どれも出来なかった。これは、この会議や市の職員の問題ではなく、おそらく市全体の体制として、発信に関しての自由度が低すぎるからだと思う。ここは制度上の明らかな欠陥だと思うので、職員のレベル

で責任を取らずに、ある意味で無責任に発信できる体制作りを整えるべきだと思う。推進会議委員等にもっと気軽にある程度不確定な情報も出せるような体制がなければ、今後、なかなか周りを巻き込む形になっていかないのではないかと思った。同様の視点が都市マスにも入っているといいのではないかと感じた。

○ 感想でも構わないが、他にはどうか。

○ 「居場所」という表現は最近多用されありふれたものかもしれないが、良い表現だと率直に思った。高齢化世代にとって、30代の頃に住み始めた大和市の状況と今の状況とでは、本当に地域が変わってきていると感じる。大和市のつきみ野地域では高齢化が進んで、子供の姿を見かけることは少なくなったと実感する。それゆえ、ここに書いてある事は、だいたい当たっているが、1つ、都市の魅力や活力の低下という点について、都市としての「大和市の魅力」とは何かと、改めて思っている。やはりそれは「多様」である。中央林間駅や南林間駅、大和駅、桜ヶ丘駅、高座渋谷駅周辺では、それぞれまちの様子が違う。住む人の考え方も違う気がしており、生活の基盤の立て方も違う。そのため、都市の魅力は1つにまとめられないので、「多様」と表現しているのではないかと感じた。

○ 都市計画審議会（以下「都計審」という）から指摘のあった「らしさ」についてだが、別に藤沢との違いを出す必要はなく、大和市に住んでる人が幸せであればいいので「地味でも豊かな暮らし」でも良いのではないかと思う。特徴を理解することは大事だが、「らしさ」を無理矢理、作る必要はない。それがシティープロモーションといった話であれば別だが、都市計画や街づくりは市民を対象としているのであるから、そのように考えて良いのではないか。

もう一点、都市マスで改めて、都市の目標とする姿を議論する必要があるのかも疑問である。やはりまず総合計画の基本構想、基本計画があって、大和市は『健康』というキーワードを市政の中心に据えており、これは十分に「らしさ」であると思う。そこからつなげて考えていけばよいのではないか。

おそらく「居場所」をポジティブに理解すると、社会参加する場所があるということである。例えば、「まちに「居場所」があるから、みんなが家からまちに出てきて、いろんなことをする。それが心身ともに健康で豊かな暮らしだ」というストーリーを繋げるのが自然ではないか。いきなり『まちの健康』と関係なく「居場所」が出てくるのではなく、やはり「居場所」には健康増進の意味があり、人、まち、社会の健康の実現を目指す大和市の都市づくりとして、まちに出ていくきっかけ、歩きたくなるとか、外出したくなるという意味での「居場所」が大事だという流れにすると、筋が通ると思う。そもそも都市マスの中だけで新たに目標を議論するっていうのは、計画体系として不自然である。あとは、地区街づくりの話も入れ込んでいただきたい。現在のみんなの街づくり条例も含めて、この会議も含めて時代に合わない部分が出てきている。これまでのようにルールを作る事を前提とした街づくりを支援して、まちを良くしていくというやり方もあるが、もっと地域の人たちや、若い人たちが自分たちで活動の場をつくり、そこで活動し、運営していくというような、これからの時代に合った地域街づくりを再構築することについて記載していけると良い。

地区街づくりについて、これまでのようにルールやビジョン、プランを作るということもあるが、自らの地域を良くしていこうという活動を促すというか後押しするような、エリアマネジメントとかエリアリノベーションといった言葉に込められてる「これからのまちづくり」の視点で、地区街づくりの仕組みを少し再構築する必要があると感じた。

結論は出ないが、おそらく今の仕組みでは少し時代遅れになっている。実際、あまり条例を使う事例は出てこないのではないかと。仕組みがあるのだから今の地区街づくりの仕組みを時代に合わせて変えていくぐらいのことはぜひ、書いて欲しいという個人的な意見である。

次回は整えられた素案が出てくる予定なので、この項目について聞いておきたい等、いかがか。

○ 先ごろの風水害が話題となることが多い。日本各地ではいろいろ洪水が起きているが、大和市でも河川沿いでは避難勧告が出たりしていた。そのような状況があるにせよ、大和市は、比較的災害に強い安全な都市だという認識の下で書かれているのか。風水害にあった地域だったら、もっと防災が前面に出た都市マスになるのではないかと思うが、現状はあまり前面に出てきてない印象を受ける。大和市の安全という意味での認識について伺いたい。

▼ おっしゃる通り、地形的には大和はかなり地震には強く、市長も常々同様の発言をしている。

当然、東西の川沿いはまだ河川改修が完了していないので若干の心配はあるものの、地震には非常に強いという認識である。ただ、どちらかという火災については今後はより重視していかなければいけないという考えを持っている。

都市計画的なもので言えば、例えば防火指定を強化していくというようなことを検討している。

今回の台風19号の時、相模川はかなり危険な状況だった。特に厚木市が危険だった。厚木市などに比べるとやはり比較的風水害には強く、都市防災という観点では貯留槽等も作ってかなり対応等できるようになっていると捉えている。

とは言いながら、やはり防災の観点も、都市マスの中ではある程度示していこうと考えている。

○ かつて防災といえば地震・火災というイメージだったが、昨今は風水害に対する関心が、どこの場所でも高いので、その部分も表現されると良い。

▼ 確かに、災害の一つとして捉えて表現していくと良いと思う。

○ 今回の台風は、実際のところどの程度危険だったのか。余裕があったのか。

余裕はない。東側の境川については、上流の地域で降水量が多いと下流に影響が出る。大和市自体の降水量は少なかったため、本市が水源である引地川の増水はそうでもなかった。今回は相模原市の上流の山沿いの地域で降ったため、同地域に水源をもつ境川の影響が大きかった。逸水はしていないが、護岸が少し崩れたところがある。

○ 気候変動の影響もあり降水量が増えた場合は、今後も危険が残っているということか。

▼ そうである。

○ 今回が余裕だったという話であればそこをアピールポイントにすれば良いと感じたが、さすがにそうではないということである。

▼ そうである。比較的、周辺の都市に比べると被害が少なかったというところではある。

○ 理解した。

▼ 西側の引地川について言えば、下流部の藤沢市の河川改修が完了していないため、その影響がある。境川もやはり危ないのは下流であり、藤沢市の方が危なくて、大和は逸水してしまうと当然、藤沢市はもっといろいろな所で氾濫するという危なさはあるとご理解いただきたい。

○ 今回の台風で自分も水の被害はなかったが停電を経験し、身に染みて感じた。そのため、気がかりな点ではある。

○ 一級河川が傍を通っており堤防があって、堤防より低い地域があるということではないので、それほ

ど大きい被害も想定できないと思う。そのような意味で、やはり安全なのだと思う。

- 局所的に大和でたくさん降ったら、危ないだろう。今回は山の方で降ったが、大和市にゲリラ豪雨が来た場合は、話は別である。
- ▼ 土砂災害に対しては市として対応の体制を整えているが、厚木や相模原に比べると、高低差が少なく小田急線が走る部分はほぼ平坦であり、東西の川沿いにある程度危険な部分があるので、監視しやすいのではないかと思う。崖地が多い横浜や横須賀に比べると、やはりかなり安全だと思う。
- 「地域が主役となる」という点について、やはり住宅地における空き家の話や、住宅地の今後の在り方を考えた時に、今後は「地域が主役となるまちづくりの推進」というところに関係してくると思う。これは、最低敷地面積を設定するなどの規制ではなく、まちの魅力を高めいかに新しい人に来てもらうかという視点である。これからの新しいまちづくりの課題があり、そういったことをどう支援するかという点、このテーマで受け止めざるを得ない。地域別構想で書くよりは、全体構想の都市づくりのテーマの一つとして捉えるのが良い。大和市はコンパクトだから見えにくいですが、駅前もそれほど元気ではない。そうすると駅前の商店街の話等も、ここで受けるしかないと思う。課題とそういう地域の主体的な動きを、どうサポートしていくかという視点を取り入れてはどうか。
- 丁寧に仕事しているから改定スケジュールが遅れているのだという印象を持った。それから先ほどの水害等の話と関連して、地質調査や造成地のリサーチやデータ収集をしている部署と街づくりの部署が連携していくと良さそうである。
- ▼ ありがとうございます。専門的に調査しているわけではないが、傾斜の角度や、地山がそのまま出ているか、人工的な盛土かといった形態等を調べている。人工的な盛土だけで作ったような古い宅地については、大規模盛土造成地として調査を行っている。盛土の分布の情報は公開はしているが、その危険度については個別に調査していかなければいけないので、費用と時間がかかる。そこまでは現在まだ行きついていないところである。
- 綾瀬や藤沢等、近隣都市と連携した方が、もっと効果があると思う。その予定はあるのか。
- ▼ 都市マスを改定するにあたって直接連携したということは今のところない。広域的な視点という意味合いでは近隣市との連携についても記載を検討していく。
- 大事な論点が出たと思うので、次の議題に移りたい。

(2) 街づくり啓発事業について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

事務局より説明後、意見聴取。

- 先ほどもこれと同様の投げ掛けがあったと思う。
- いろいろ提案をしたが、全て通らなかった。ただ、今後に繋がる話は少し見えてきた。庁内の他部署とも相談・調整したと聞いている。
- ▼ 60周年記念事業としては、12月までに成果を出す必要があるため、これまでもご意見をいただいている「見せ方」については、今後も引き続き検討していきたい。

○ 実際には、おそらく再来年度に初めて実現するのだろうと思う。ただ、絶対に再来年度に今年のことをやらないで欲しい。再来年度の自由度で、もっと動けるようにしていただきたい。

○ 先ほどの事業の街歩きの話と 60 周年の個別の話でもよいが、もっと大きな議論が重要な気がする。2つをきっかけにして少し残りの時間議論を進めたいと思うが、いかがか。

○ 【資料2】の「歩いて知ろう 大和市の街づくり賞」の(2)開催結果について、「参加者の年齢は高齢者が多く、様々な世代に参加していただけるような工夫が必要」とあるが、そういった観点から考えると、別の呼び物やスタンプラリー、参加者は特産物がもらえる等、何かそういった工夫があると良いかと思う。

しかし、ここで重要なことは、どんな雰囲気イベントにしたかったのかということだと思う。以前、大和駅近くの施設で知的な子ども(小学生)が発表する機会があったかと思う。そのような、クラスの上層部や学年に数名しかいないような子どもお子さんにとって、普段学校では、自分の感覚でやり取りできる相手あまりおらず、そのような子どもが学ぶ場であるとか、相手が高齢であっても本当の意味でのお友達が存在するかと思うので、どんな雰囲気でイベントを持っていきたくったのが大事なことかと思う。

そのような場に来る方が、街づくり賞に興味を持って、このマップを持って「ちょっとあれ見に行きたいわ」と思うようになるのかと思った。このイベントの参加者について、年齢は高齢者に偏ってしまうにしても、どの辺りから何に興味を持って参加しているかがわかると、今後の参考になるのではないか。

○ 参加者へアンケートをしていないと、評価のしようがない。

▼ アンケートは実施している。

○ では、どういう参加目的や、何に期待しているのか、何を見て参加したのか、世代等がないと、このイベントの議論は出来ない。

▼ アンケートは、普段「街づくり学校」開催後に実施するものよりも細かい設問で行った。回答者の住所まではわからないが、どこで知ったか、街づくり賞を知っているか、街づくり賞に応募したことがあるか、年齢層等、さらに街づくり啓発事業でどういったことを取り上げてほしいかということ回答していただいた。

申込み時点で住所を聞いている。また、参加者自身からも「自分の家のそばなので行ってみたい」という方もいらっしゃれば「大和に引っ越してきて数か月なので回りたい」という方もいらっしゃったり、もちろん 20 代の方も中にはいらっしゃったり、男女それぞれいらっしゃったりと様々なので、今度、サポーターの集いの時までにはそれらをしっかり整理したい。当初からサポーターとの事業として動いているので、それを踏まえて課内でも検討する。

先ほどご意見いただいたスタンプラリーについては、本事業は当初からヤマトン健康ポイントの対象事業として募集の段階から説明しており、ヤマトン健康ポイントが 40 歳以上の方を対象としているため、その影響からか年齢層も高く「歩きたい」との思いが伺われる方のご参加もあった。

ただ街づくりの啓発という意味では、入り口は何であれ興味を持っていただき、大和市の街づくりに関する事業を知っていただき、そこから次につなげていくという意味もあると思う。メリットもデメリットもあると思うが、検討材料としていければと思っている。

○ 目的は沢山あると思うが、何か。街歩きと言えば、今人気であることもあり、人は集まると思う。健

康で歩いてもらいたいという目的なのか、景観や街づくりに興味を持ってもらいたいのかで、やり方がたぶん違うと思う。目的に反して、参加者が街歩き出来て楽しいで帰ってしまったのであれば、いくら参加者が集まったとしても、街づくりに繋がっていくようにやり方を変える必要がある。その点がやはり曖昧で明確ではないので、何を議論していいのか分からない。今のままでは、参加者が集まり良かったが、高齢者が多いという状況が続いていくことになる。

- 参加者がどこから来たのかは、知りたい。
- 景観が良い所からの参加なのか、地域活動が盛んな所からの参加なのか、街づくりに関する関心が高い方なのか、参加者のベースとなる情報があり、大和市だとそれが容易に推察できると思う。
私はやはり次世代とか、次世代の人が外に住んだとしても役立つことだと考えている。また、小学生の子どもがいるご家庭や、中・高校生等、何かそういう所に落としていくことが出来たら次に繋がるかと思う。それが大和市に落とされないとしても、おそらく何らかの形で役立つと思う。
- ▼ 私は、参加者と一緒に街歩きで話をしながら回ったが、中央林間在住で今回のルートも普段散歩してるところという方がいた。ただ実際、我々が「ここはこういう賞を取って」とか「こういうところが良かったんでこういう賞を取ってるんですよ」という説明をして初めて「『ここはこういう所だったんだ』という新しい発見を得て良かった」という方もいた。
他にも、若い女性の参加者が2人いて「『街づくり賞』はどういうものかっていう所に興味があって参加した」という方がいた。
今回の開催結果等は、また分析をしていきたい。
- 街歩きの前に、「歩いて知ろう大和市の街づくり賞」の趣旨を、きちんと参加者に市の方から、説明をしていると理解していたが、間違いないか。
- ▼ そうである。その説明をした上で、「街づくり賞」を実際に見ていただくという内容だった。
- 趣旨としては、あくまでも「街づくり賞」というものがあり、今回は中央林間地区の受賞事例を実際に見てもらおうということは、皆さん理解したうえで参加しているはずである。
- それを啓発にどうやって繋げようかと思っている。
- 繋げなくても良いと思う。先ほどの健康都市で言えば、歩きたい景観・街並みがあれば、歩いて健康になるという位置づけで全く問題ない。ねらいが何かということである。景観を知ってもらいたければ、それなりにそこで説明があったりとかいう事もあるし。やはり狙いを明確にしているのかが気になった。
- ▼ 街づくりサポーターにも積極的に、説明や案内等の役割を担っていただいた。次も「今度は南部の方をやりたい」という意見も出ているので、街づくりサポーターの活動の活性化にも繋がると考えている。
- 街づくりサポーターに、このイベント自体、あるいは作業をもっと依頼できなかったのか。
- ▼ 今回は初めての試みだったので市主導で作業を行ったが、ゆくゆくは街づくりサポーターを中心に企画等をしてもらいたいと思っている。
- そうしなければいけない時だと思う。過去20回開催しているこの「街づくり賞」の取組み自体を、市民にもっと担っていただく事が出来ていたら良かった。もともと市民に担っていただけるように動かれて進まなかった部分もあるかと思うが、今後もその努力を何かどこかですべきだと思う。
- ▼ 検討する。

○ おそらくこのイベントも、調整やプログラム作り等を、職員でやっているのかと思うが、大変だと思う。そういったところはなるべく市民の方たちにお願ひして任せれば、おそらく市民の方たちの中で他の人を巻き込んでくれると思う。そういった方向で考えた方が良いのではないか。

○ 市制 60 周年記念事業についてもご意見を伺いたい。

○ この話自体も、市民にもっと担っていただきたいと思う。

○ 今の話と同様で、長い時間をかけられてるのはわかるが、時間と手間をかけすぎていると思う。これこそ、職員が例えば 3 日 4 日かけてやるのが、プロの人であればもっと早くと出来てしまうということもある。

内部で制作することが本当に効果的かという、やっぱり「字が小さい」、「写真も小さい」という問題点がある。これは綺麗だが、素人の仕事である。やはり見せるプロの仕事と片手間で少しセンスのある人が頑張った仕事には差がある。この作業を外部に委託した方が、情報の受け手にとっても良いと思う。

○ 例えば横浜や逗子では、景観について、市内の写真クラブのメンバーに写真撮影をお願いすると、競って撮ってくれる。それでその中から良いものをピックアップすれば良くて、横浜市は区役所もそれをどんどん使用している。そのような巻き込み方もあって、おっしゃるように市民の方を出来るだけ、巻き込んでいくことが大切だと思う。

そうすると次第に市民目線で見せたいものが見えてくると思う。

文章についても全く同じで、市民の目を見て「ここを見て欲しい」という言葉で伝えられる様になるのではないか。

大和市にガイド協会みたいなものはあるのか。

▼ ない。

○ ガイド協会のようなものがあれば、そのような人たちは普段から街歩きをしている。それからもう 1 つは、このようなツアーとは別に、1 人でも回れるようにするには、例えば、マップにコミュニティバスのルートを入れておくとか、そういう形をすれば興味を持った人が 1 人でも「ちょっと行ってみようかな」となるのではないか。

○ 地図が親切ではない。目標物やコンビニ、ランドマーク等がないと、この白黒の地図で、意外と場所も大きくとっているのだからたどり着かないと思う。

▼ 個人邸も含まれているので、意向を確認したところ、あまり特定されないよう配慮した。

○ そのような事例は、そもそも掲載出来ないものだと思う。近くに行っても個人邸だと、たどりつけな
いかもしれない。

報告書としては綺麗にまとまっているが、これを使って歩く側からすると、情報が整理されていない。そこはなかなか市役所の職員が片手間でやる限界もあり、「これはわかりやすいね」といった議論をしながらやらないといけないと思う。

○ もっと予算を使うべきではないか。

○ 神奈川区では、公衆トイレやコンビニ等の使用可能なトイレの位置を地図上に示した。

郵便局等も入れておくと、そういう所に寄れるルートだというのがわかる。

○ 業者に委託する話と市民を巻き込む話とを両方考えて、市作業をある意味、有効的に減らしていくと、良い気がする。

- さきほどの街づくり啓発事業の進め方の話と共通していて、市が関わりすぎていると感じる。
 - 少し写真を撮るだけでもいいので関わってくれる人が増えれば増えるほど良いと思う。それが業者であっても、良い方向へ向かうと思う。
 - 現在は、地域支援に割く時間が少ない分、このようなものに時間をかけられるのはわかる。
 - 写真が小さいというご意見もあったかと思うが、時間をかければ写真のところをクリックすれば大きくしたり、そういうことはいろいろ出来ると思う。どれだけ時間をかけるかという話になるが。
 - やはりそこを素人がやる限界がある。それを出来る人に頼めば、パッと出来る。じゃあどこまで外部に委託するかという話である。
 - 素人の人が時間をかけても限界がある。もうかなり限界を超えていると思うので、これ以上は深められない。スマホで普通にホームページとして見える形になってるか、あるいはインスタグラムのように他のプラットホームに行けない限りは、変わらない。
 - 歩く前提であればスマホで見られるのが、大前提である。PDF で開いて印刷では効率が悪い。
 - ▼ 検討させていただく。
 - ▼ スマホで PDF を見るのは可能である。
 - 可能ではあるが、現実的にはあまり有効ではない。この PDF をあまり追及しても生産的ではないと思う。
 - ▼ これを見て現地に行こうと思えるかという、少し難しいと思う。
 - これ以上、一生懸命やっても限界がある。そもそも字が小さいので、スマホだともっと小さくなるのか。あまり一生懸命、情報を詰め込もうとかキレイにしようとかって、この世界で追及しても限界があると思う。
 - ただ「歩いて知ろう街づくり賞」の時に、実際にこれを使って歩いたということで間違いないか。
 - ▼ その時は中央林間地域だけだったので、普段街づくり学校で使用するような、A3、1枚の地図に時間内に回れる範囲の事例の位置を示し、更にお店等の目印を落とした地図を使用した。歩く時間も1時間程度だった。
 - せっかく作ったのだから、何らかの形でサポーターが積極的に歩きたいという話であれば地図を他の場所でも使ってもらえたらと思う。
 - コースがあって駅から出発し、このルートで行くとここにトイレがあり、場合によってはここで休憩も出来る、といったような使い方の提案を打ち出せば、3時間から4時間楽しめる地図になると思う。そうすれば、すこし積極的な活用につながるかもしれない。
 - まだ検討の余地はある。
 - 広報で取り上げてもらう等、逆に言えば、市だからこそ出来ることがあると思う。
 - よろしいか。
- いろいろな課題が出たと思う。ただある意味、市民の方の中でも得意な方もいるし、逆に市民目線の出し方・使い方もあるかと思うので、少し手放していくような形でやると、より良いものが出てくるのではないかと思う。今回の会議の大事な議論かと思う。
- それでは本日の議題2つについての議論は、以上とする。

3. その他

- ・事務局より事務連絡

4. 閉会

以上